

■ 評価結果 ■

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

Q3 室外環境（敷地内）

Q3のスコア= 2.7

Category	Score
生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
45.2 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
0.0 %

<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
折兼(仮称)新豊橋営業所

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体							
	重点項目																
Q 建築物の環境品質																	3.0
Q1 室内環境																	
1 音環境																	
1.1 室内騒音レベル																	
1.2 遮音																	
1 開口部遮音性能																	
2 界壁遮音性能																	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																	
1.3 吸音																	
2 温熱環境																	
2.1 室温制御																	
1 室温																	
2 外皮性能																	
3 ゾーン別制御性																	
2.2 湿度制御																	
2.3 空調方式																	
3 光・視環境																	
3.1 昼光利用																	
1 昼光率																	
2 方位別開口																	
3 昼光利用設備																	
3.2 グレア対策																	
1 昼光制御																	
3.3 照度																	
3.4 照明制御																	
4 空気質環境																	
4.1 発生源対策																	
1 化学汚染物質																	
4.2 換気																	
1 換気量																	
2 自然換気性能																	
3 取り入れ外気への配慮																	
4.3 運用管理																	
1 CO ₂ の監視																	
2 喫煙の制御																	
Q2 サービス性能																	3.4
1 機能性																	
1.1 機能性・使いやすさ																	
1 広さ・収納性																	
2 高度情報通信設備対応																	
3 バリアフリー計画			独自														
1.2 心理性・快適性																	
1 広さ感・景観 (天井高)																	
2 リフレッシュスペース																	
3 内装計画																	
1.3 維持管理																	
1 維持管理に配慮した設計																	
2 維持管理用機能の確保																	
2 耐用性・信頼性																	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振																	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																	
2 免震・制震・制振性能																	
2.2 部品・部材の耐用年数																	
1 躯体材料の耐用年数																	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②														
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																	
6 主要設備機器の更新必要間隔																	
2.4 信頼性																	
1 空調・換気設備																	
2 給排水・衛生設備			②														
3 電気設備																	
4 機械・配管支持方法																	
5 通信・情報設備																	

3 対応性・更新性			0.4	4.3	0.48	-	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		1階階高: 4.65m、2階階高: 3.775m(水下側)	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比: 0.1未満(264.95m/3,568.03m ² =0.074≒0.07)	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり		事務所: 4,900N/m ² 、工場: 24,500N/m ²	3.0	5.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.1	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②	構造部材を痛めることなく修繕・更新が可	-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	4.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.80	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		トップライト設置	3.0	4.0	0.10	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.33	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、擬音装置設置	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②		-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自		3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	独自	鉄骨・軽鉄+仕上材、OAフロアの採用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	2.7	0.22	-	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.6	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	2.0	0.33	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.33	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率68%	-	4.2	0.33	-	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を設置しない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2 振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	2.3	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	2.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
折葉(仮称)新豊橋営業所

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	3.3
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:45.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 折兼(仮称)新豊橋営業所

計画上の配慮事項	
総合	当施設は食品トレイなどの包装品を取り扱う物流倉庫になります。広い作業空間の中で環境を考慮した空調・換気・照明としています。 構造は地震等による損傷被害を少なくし、いち早く通常業務が再開できる計画としています。また、従業員の快適性を考えリフレッシュスペースを兼ね自動販売機を設置した食堂、テラスを設けています。
Q1 室内環境	・外壁、屋根、ガラスは断熱性能の高い製品を使い外皮性能を使用。 ・建築材料は全てF☆☆☆☆を使用。 ・居室換気量を30m³/h確保。 ・建屋内禁煙の運用。
Q2 サービス性能	・1人当たりの執務スペースを広く設定。広く天井の高いリフレッシュスペースを設けて、機能性・快適性に配慮。 ・階高のゆとり、物流センターとしての荷重のゆとりを取り、対応性・更新性に配慮。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地北・東・南側に植栽帯を配置。
LR1 エネルギー	・外壁、屋根、ガラスの断熱性(省エネルギー性)により使用エネルギー量削減に配慮。 ・1次エネルギー消費量の検討により設備システムの効率化を配慮。
LR2 資源・マテリアル	・鉄骨造により分別解体が容易。 ・躯体材料以外のリサイクル材の利用、OAフロアを利用して非再生性資源の使用料削減に配慮。
LR3 敷地外環境	・燃焼機器を設けない(大気汚染防止)の配慮。 ・適切な駐車スペース(管理用・荷捌用)の確保し、交通負荷抑制に配慮。
その他	